

# 文学部「海外現地研修 B」

## 北東アジアの史跡見学と学生交流

2018年8月28日から9月2日まで（5泊6日）の予定で、中国東北地方において「海外現地研修 B」を実施します。この研修は、西洋史学専攻の豊川浩一が提案し、アジア史専攻の高田幸男が計画しました。高田が主担当、豊川が副担当となって、全日程を引率します。

北東アジアに位置する中国東北地方は古くから諸民族が行き交った地域で、近代になるとロシアや日本の勢力争いの末、日本の支配下に入り、1945年まで日本の支配が続きました。その後は国共内戦を経て中華人民共和国の鉱工業の中心地帯となり、現在に至ります。

現地研修では、ハルビン・大連の史跡や博物館を参観するとともに、現地の学生と交流することを通じて、北東アジアの歴史と中国東北地方の現状を体感し、現地を訪問することや外国語でコミュニケーションを取ることの重要性を認識し、中国・ロシア・日本の近代史および北東アジアの歴史と現状に対する学習・研究意欲を向上することを目的とします。

所属学科・専攻を問わず、初学者を主たる対象としますが、上級生・大学院生（留学生を含む）も、それぞれの研究課題を持って参加するのであれば歓迎します。

こんな人にオススメ

1・2年生：はじめての海外体験、海外史跡見学、中国の大学生との本音交流、留学の下見

上級生・大学院生：卒業論文・修論・博論の着想、研究関連の現地見学、留学の下見

関連するテーマ：近代日本文学、植民地文学、異文化交流、北東アジア前近代史（高句麗・渤海・清朝など）、北東アジア近現代史（ロシア史・日本史・中国史・朝鮮史・移民史など）、中国東北社会の現状、北東アジア交流の現状など

現地研修期間： 2018年8月28日（火）～9月2日（日） 5泊6日

日程（予定）

8月28日（火） 成田空港に集合し、大連到着後、高速鉄道でハルビン着

8月29日（水） ハルビン駅（伊藤博文暗殺現場）、聖ソフィア大聖堂、黒龍江省博物館、731部隊旧址等を見学

8月30日（木） 中央大街、スターリン公園等を見学し、午後、高速鉄道で大連着、夜、遼寧師範大学の学生と交流

8月31日（金） 旅順地区へ日帰り旅行をおこない、二〇三高地、東鶏冠山北堡壘（いずれも日露戦争激戦地）、旅順日露監獄旧址博物館（安重根処刑地）等を見学、大連外国語大学日本語科学生と交流（交渉中）

9月1日（土） グループを作り大連市内を自由見学（遼寧師範大生の同行を交渉中）

9月2日（日） 大連空港から成田空港到着後、解散

事前・事後の授業（未定の時間・場所は追って通知します）

第1回 4月10日（火）昼休み（駿河台 リバティタワー1157）／4月12日（木）昼休み（和泉メディア棟 M510）：ガイダンス、「参加希望書」を配布、応募締め切りは4月20日（金）

第2回 4月24日（火）昼休み（駿河台 リバティタワー1157）／4月26日（木）昼休み（和泉メディア棟 M510）：事前学習（1）「参加希望書」を集約し、各自のテーマを確認したうえで履修登録（応募者多数の場合は選抜も実施）

第3回 7月7日（土）：事前学習（2）公開事前学習会  
参加各自が研究テーマに関して報告、議論

第4回 8月6日（月）：事前学習（3）  
合宿見学ガイドの原稿提出（A4サイズ1頁）

第5回 現地研修

第6回 9月15日（土）：最終報告会  
受講生各自の研究テーマに関する最終報告

宿泊施設：ハルビンは龍門貴賓楼酒店(旧ヤマトホテル)、大連は遼寧師範大学国際文化交流中心を予定

募集人数：15名以内（最少催行人数5名）

※応募者多数の場合は、学年・志望理由等を勘案して選抜します。

参加費用：約12万円 航空費6.6万円、宿泊+食費4.4万円、雑費1万円程度（変動の可能性あり）  
なお、大学より助成金が出る予定（助成額は未定。去年は4万円）

応募方法：「参加希望書」を4月20日(金)17:00（厳守）までに駿河台または和泉文学部事務室に提出

単位取得の条件：現地研修および事前・事後の授業に参加し各自6000字程度のレポートを提出すること

担当者・引率者：アジア史専攻 高田幸男（主担当）、西洋史学専攻 豊川浩一（副担当）

※シラバスも併せて参照すること。

問い合わせ先：高田幸男 takay@meiji.ac.jp

